

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473400669	事業の開始年月日	平成18年4月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	有限会社 松田メディカルサービス		
事業所名	グループホームおり鶴の里		
所在地	(246-0025) 神奈川県横浜市瀬谷区阿久和西3-31-9		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和5年7月17日	評価結果 市町村受理日	令和6年2月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域の方にグループホームのことを知っていただくために、Instagramを開設しました。ホームの駐車場スペースに鯉のぼりや七夕飾りなどを設置して、地域の方と交流できるようにしています。ホーム内では、コロナ感染症の予防策をとりながら、毎日、生活の中でのリハビリや体操などに取り組んでいます。ご本人やご家族の希望をお聞きしながら、ホームで提供できるサービスを出せる限り使っただけのようにしています。ご高齢になり、心身ともに重度の状態になられた場合も引き続きご利用いただき、ホームでお看取りをさせていただくことも可能です。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年11月1日	評価機関 評価決定日	令和6年1月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄線「三ツ境」駅、または「いずみ野」からバスで10分程の住宅街に立地しています。自然に恵まれた環境で近隣には公園があります。日当たりの良い木造2階建てバリアフリーの住宅型の建物で浴室に機械浴の設備があります。

<優れている点>

「利用者が求める生活に基づいた援助を目指します」の他2項目を理念に掲げ、携帯電話の所持や晩酌の支援、インターネットでの嗜好品購入、おやつ作りや食事の盛付けなど、本人本位の個別支援をしています。事業所や個人の情報通信機器での受講を可能にし、柔軟に取り組めるようにして学びを深めています。代表者は月2回事業所を訪れ職員の勤務状況や職員同士の人間関係の把握に努めています。また、事業所を認識してもらう目的で、メディアコンテンツを活用しSNSの開設で画像や動画で事業所の様子や、取り組みなどを投稿しています。近隣住民に自宅で眠っている鯉のぼりを募集し、駐車場に大小異なる多数の鯉のぼりを泳がせることで、地域の人にも楽しんでもらえるような工夫をしています。また、駐車場には、職員手作りによる大きな黒板を置き、ホーム名にちなんだ「鶴の絵を書いてね」とお願いすると、たくさん子どもたちが鶴の絵を描きに來ます。休憩してもらうためのベンチの設置や、桜の木のライトアップなど職員による積極的な取り組みにより地域とのつながりの場となっています。

<工夫点>

事務所に「職員研修実施一覧表」を掲示して受講の有無を明確にし職員に研修を促しています。敷地内に調理専門の短時間勤務の職員募集を目的の「のぼり」を立ててアピールし人材の確保につなげています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームおり鶴の里
ユニット名	おてだま

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ユニット会議の際に理念について、共有して再確認する場があり、実践につなげるよう意識しています。ひとりの生活者であることを忘れないよう心がけています。	「利用者が求める生活に基づいた援助を目指します」の他2項目の理念を掲げています。玄関などへの掲示やユニット会議で確認し共有しています。携帯電話の利用や晩酌支援、インターネットでの嗜好品の買物、制限の無い看取り時の面会など、本人本位のケアに努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナウイルスの影響にて、地域交流はあまり出来ていませんが、自治会に加入しており、ホームとしては交流は出来ています。日常的に散歩や買い物にでかけ、挨拶をしたり、見守りをして下さったりといった付き合いがあります。	向原自治会に加入し地域の情報を得て年中行事の「見守りあいの集い」へ参加しています。スタンドパイプ式初期消火箱（消火栓への接続を容易にし、必要な器材を台車に積載した移動可能な消火器具）の設置場所に庭先を提供し自治会と協力関係を築いています。地域とのつながりに重きを置き、職員による積極的な多岐にわたる取り組みを行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者等が地域の方々の見学や訪問の際に、また運営推進会議にて、認知症の人の理解や支援方法について、さらにはグループホームの役割について説明するなどしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	管理者やユニットリーダーが参加し、取り組み状況等の報告や話し合いを行っています。議事録を職員に開示したり、会議の際などに情報を伝えて、サービスに活かせるようにしています。	運営推進会議は、概ね2ヶ月に1度開催しています。利用者家族の代表、自治会会長及び副会長、民生委員、地域ケアプラザの職員、事業所の職員がメンバーです。「外国人雇用の冊子があるので参考にしては」などのアドバイスを取り入れています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護を受けている利用者の担当者と連絡を取り合い、報告や相談等をおこなっています。介護認定の更新の際には、利用者の暮らしの様子等を具体的に伝えていきます。	介護認定申請で担当窓口を訪れた際に高齢・障害支援課の職員に実情などを伝えていきます。生活保護費受給者に関して、生活支援課の職員とケースに応じて連絡しています。5月に神奈川県主催の「新型コロナ感染症高齢者施設における対応」の研修を受講しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	「身体的拘束適正化検討委員会」の開催を行い、職員への研修も実施しています。安全のためにセンサーを使用していますが、エレベーターに乗り、出かけていかれる気配があれば、職員間で情報共有し、散歩や買物に行くなど、利用者の気持ちを考慮した支援を行っています。	指針に基づき支援を行い、身体拘束適正化検討委員会を開催しています。年間研修計画に研修を組み込み理解を深めています。入居者がエレベーターのボタンを押すなど、離設の様子が見られた際は、行動を止めずに職員が同行し、散歩をするなどをして気分転換しています。安全確認のセンサーは家族の了承を得て一時的に使用しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	利用者からの暴言等が介護者のストレスとなり、不適切なケアにつながる不安があります。会議等で話し合いを行ったり、上記、身体拘束等と関連付けて研修を行うなどして防止に努めています。	高齢者虐待防止の指針を整え、身体拘束等適正化研修の中で関連づけて「虐待防止の具体策」などを学んでいます。虐待と思われる行為は、行っていないが発見した際には、管理者に上がるようにしています。自己点検シートで一斉点検を行い、虐待防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している方がおり、学ぶ機会もありますが、管理者が担当する面も多いです。ホーム内で必要性を話すことはありますが、具体的に活用できるような支援は、今のところできていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時には重要事項説明書や契約書を管理者と読み合わせするようにしています。少しずつ読み合わせしながら疑問点がないか確認しています。また制度改正による料金改定などについても改正前に書面で説明し同意を得るようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	本人やご家族の意見や要望については、職員間で共有し、調べたり解決策を検討し、反映させるようにしています。ご家族には、お手紙や電話、訪問時などにお伺いし、なんでもお話をいただけるように配慮をしています。	毎月発行する個別の便りやSNS投稿アプリで利用者の様子を家族などに伝えています。「個別の便りは紙面ではなくメールにしてほしい」などの要望を家族の来訪時や電話連絡で把握し反映しています。コロナ禍以前に実施していた家族会の開催を検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者とユニットリーダーは法人本部の全体会議に出席し、職員の意見や提案が反映されるようにしています。また、管理者はユニット会議や個別面談にて意見を聴く機会を設けていますが、意見をいう場がないと感じている職員もいるようです。	管理者はユニット会議などで職員の意見を聞いています。庭の桜の木のライトアップ、駐車場にベンチと黒板を設置し近隣の人が立ち寄れる場の提供、短時間でも働いてもらえるよう職を立て食事作り専門の募集をする等、職員から上がった意見を反映しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月に2回程度ホームに来所し、そこでホームの労働環境を見たり、職員の希望等現場の声を聞く様に取り組んでいます。人材不足に関して、気づかいやねぎらいの言葉があり、ストレス緩和や向上心を持って働けるよう務めています。	在籍10年以上の職員が多数勤務しています。代表者は月2回事業所を訪れ職員の勤務状況を把握しています。職員同士の人間関係の把握に努め、代表自ら職員に声をかけ食事に誘うなどして職場環境の整備に努めています。取得資格により、法人が費用を負担する規定があります。	職を立て、食事作りの短時間勤務の職員採用に至った事例を参考にして、多様な働き方に対応した勤務形態の導入に継続して取り組み、人材確保につなげることを期待します。
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は職員が法人内外の研修に参加する機会を保障し、研修費としての賃金や交通費も出しています。また制度を利用して、パート職員が働きながら資格取得できるような支援もあります。	年間研修計画を作成しWebを利用して職員の育成に取り組んでいます。事業所や個人の携帯電話での受講を可能にして柔軟に取り組み易くしています。管理者は「職員研修実施一覧表」で受講状況を把握すると共に、事務所に掲示し受講の有無を可視化して職員に受講を促しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	連絡会等の事業者団体への加入を継続しておりますが、人手不足により、外部での交流の機会が減っています。また、法人内の管理者間で交流する機会もつくり、サービス向上につなげていくようにしています。コロナの影響で交換研修の実施ができていません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご本人がホームを見学できる様に働きかけをしています。又、その様子を拝見しご本人を知るように努めています。信頼関係を構築しながら不安や心配事、要望等の話をよく伺うようにしています。入居前にご本人情報を職員で共有し、ケアの方向性を統一するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの経緯やご家族とどのように暮らしてきたのか、お話を伺いながら心配なことや不安なことなどについても聴かせていただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人やご家族の意向や必要な支援を見極め、他の専門職にも相談をしながら、納得していただけるような支援を提案、提供するようにしています。お話があった時点でグループホーム入居が適切なのかどうかも見極めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の立場になって考え、どんな思いなのか、不安なのかなど念頭に置きながら支援をしています。一人で出来ることはご自身で、協力が必要な時は声を掛け合いながら、共同生活者としての感覚を忘れずに、支援に努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の本人の様子をお手紙で報告しています。また、面会やお電話の際には、日頃の状態や本人の気持ちや思いをお伝えするようにしています。情報交換しあい、ご家族の悩みなども伺いながら、共に協力し合い支援できるようにしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染症への心配があり、遠方のご親戚や、近所の方、ご友人などは遠慮もあって直接の面会は減少しています。ただし、お電話や玄関先での顔合わせ、お手紙などでのやり取りは継続しています。	コロナ禍では、友人の来訪が減少しました。入居者は電話の取り次ぎや携帯電話で連絡を取り合っています。5類感染症移行後は、家族の対応で墓参りや馴染みの店で食事をしています。後見人と生家へ行く等もして馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の性格や相性、体や心の状態等を考慮しながら、リビングの席を決め、過ごしていただいています。また、利用者同士の会話や関係性を見守ることを念頭に置きつつ、調整や傾聴するなどの支援も行い、良好な関係となるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された利用者のほとんどが看取りで亡くられた方です。亡くなった後もご家族が物品を寄付して下さったり、ご親戚の相談に来られる場合もあります。また、生前の写真が欲しいなどのご要望にもお答えしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関りや問いかけなどから、要望をお聞きしたり、推測したりし、前向きに検討しています。ご要望をうまく伝えられない方は、本人だったらどうしたいかを考えるようにしています。迷った時は、まず本人に聞くようにしています。	職員は、日々の会話や表情、行動などから入居者の思いや意向を汲み取り、本人のやりたい気持ちを大切にしています。散歩や入浴時、居室など、職員と一対一になる時にも話を聞いています。内容は記録して職員間で共有して話し合い、意向に沿えるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前や入居後に本人が暮らしていた場所に訪問し、どのような生活をされていたのか把握するようにしています。また、本人や家族、関係者からも情報をお聞きし、職員と共有しケアに活かせるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人の出来ることやどのような支援をすれば有する力を発揮できるかなど、現状を記録し、情報共有できるように努めています。ユニット会議では、さらに情報を付け加えて、把握するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の関りの中で、利用者本人やご家族と話し、思いや希望、意見などを反映するようにしています。申し送りなどで気づいた点を伝えて、情報交換し、介護計画に活かしていますが、職員全員で話し合う機会は減っています。	支援状況を記入する援助欄を設けた書式に毎日記録をし、情報の共有を図り介護計画に反映しています。毎日の申し送り、各居室担当者の意見、会議での話し合い、医療関係者の助言、本人や家族の要望など多方面からの情報を反映して介護計画を作成しています。必要に応じて随時の見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	健康チェック表に食事量、水分量、排泄等身体的な状況を記入しています。日々の生活の様子やご本人の言葉や行動なども記録して、出来る限り実践や介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	携帯電話のご利用や飲酒の支援、ネットでの買い物支援など、ご要望に応じて対応しています。感染予防対策をとりながら、ご家族との外出や散歩、外食、居室へのお弁当の持ち込み、看取り期には夜間、早朝の面会など相談に応じて対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員や自治会長との交流もあり、散歩や外出の際の支援協力や認知症への理解について説明しています。近所の方やお店の方に顔を覚えていただき、利用者の外出時には、挨拶や質問、会計で協力していただいています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族やご本人の同意のもと、協力医療機関をかかりつけ医としています。ご家族の希望や以前からの関係でそれ以外の医療機関をご希望の場合は継続できるように支援しています。ご家族の通院介助協力の際は、普段の様子等を細かくお伝えしています。	入居者は、協力医の訪問診療を月2回受診しています。希望により入居前からの受診も選べます。看護師が週に2回、眼科や皮膚科の訪問診療もあり、適切な医療を受けられる体制となっています。家族が対応している専門医の受診には、普段の様子を細かく伝えて支援しています。必要に応じて通院介助もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師に利用者の状態や症状などを伝え、相談し助言を受けています。観察ポイントや処置の方法などを聴き、日々のケアに活かしています。また、記録を残し、経過を伝えられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前には本人の状態を細かく伝え、入院されて病状が落ち着いたら医師からの説明を受け、ホームでの生活に戻れるように支援しています。特に退院前の経過説明等についてはご家族だけでなく職員も同席するようにしています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に「終末期の看取り」のご希望を伺っています。状態の変化に応じて、その都度、ご意向の確認を行い、看取りに移行する際には、医師や看護師と連携して、ご家族に説明を行っています。日頃の関りから本人の意向をくみ取れるよう支援しています。	重度化した場合、必要になった段階で、その都度本人と家族の希望を聞きながら関係者で話し合い方針を決めて支援しています。職員へは、研修を行い、看取り時の対応が分かるように書面を事務室に置いています。看取り後は、会議で振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全ての職員が対応できるようにマニュアルを用意していますが、定期的な訓練は実施できていません。実際の急変時の対応後に振り返りを行い、今後に活かしていけるようにしていますが、一部の職員は適切な対応をとれていないと思っていますようです。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署との連携により避難訓練を年に2回行っています。又、災害時用に水、食料等を備蓄し担当者が賞味期限などを管理しています。自治会等への協力も依頼しています。	消防署員の協力を得て、水消火器の使用訓練や事業所内を見てもらい助言を受けています。防災士（日本防災士機構が認証した一定の知識と技能を習得）も受けています。事業所敷地内に自治会からの要望に応じて消化設備を設置し、地域の防災訓練の安否確認に参加しています。地域の人へは避難の際に入居者の見守りをお願いしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーにかかわる内容を確認する場合は、声をかける場所や声のかけ方にも配慮をしています。援助が必要な場合も本人の気持ちを考えて、さりげないケアを心がけていますが、難聴の方への声の大きさ等迷うこともあります。	職員は利用者一人ひとりの性格や状況に応じて選択肢を提示したり実物を見てもらい、本人が選択できるように働きかけています。声の大きさや、声のかけ方などにも気をつけ、個々の人格を尊重した支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人一人の状態に応じて、選択肢を提示したり、実物を見てもらったりなど答えやすく、本人が決めやすいように働きかけています。意思表示が困難な方には、ご家族などに相談したり、本人だったら、と想像して、出来る限り希望に沿えるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れは決まっていますが、一人一人の気持ちやペースに合わせて支援するようにしています。自立している方と重度化している方、双方のペースや希望が異なるため、その時その時の支援が難しい場合もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしさが保てるように提案するなどして、ご本人の意向もうかがいながら支援しています。好きな色を選んだり、身だしなみを整え、汚れたら更衣をするなどして、気持ちよく過ごせるように支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節の物やリクエストのあった食事を提供するようにしています。食事の下ごしらえや準備、片付けなども職員と一緒にしています。外食などの希望もあり、頻度は少ないですが出かけられるようにしています。	食事の下ごしらえや盛り付け、おやつ作り、食後の後片付けなど、個々の経験ややりたいことを活かし、食べるだけでなく役割を持てるように支援しています。調理専門の職員による入居者の要望も取り入れ食事を提供しています。写真やメニューから選んだり、バイキング形式で好きな物を食べてもらうように提供するなど、食事が楽しめるような工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その人に合った食事形態で、食事や水分を提供しています。その時の状態に応じて、本人の嗜好に合わせたものを提供したり、提供時間を変更するなど工夫をしています。摂取したものの量についても記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人の気持ちに配慮しつつ、自分で出来る方は見守りを行い、介助が必要な方は、毎食後ケアを行っています。嚥下体操やアイスマッサージ等も状態に応じて取り入れています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者様の様子を見ながらトイレの声掛けや誘導を行っています。その人なりの排泄の訴えのサイン（言動）にも注意してその人なりの排泄パターンを意識して支援を行っています。本人の希望や状態により、日中と夜間の対応を変更しての方もいます。	排泄表の活用や本人の様子などから個々のパターンを把握し、必要以上に声かけ誘導しないように心がけ、本人の力に合わせたトイレでの排泄支援に努めています。本人の訴えに耳を傾け、誘導時間などを考慮して誘導した結果、日中の失禁が改善した方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日ラジオ体操などを行い、運動への働きかけをしています。牛乳やヨーグルト、多めの水分摂取なども促しています。排便状況の確認を行い、下剤の服用も行っています。個々の状態に合わせて、浣腸等も行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日や時間を決めて支援していますが、当日の気分や体調に合わせて対応し、無理強いはしていません。お話をしたり、歌を歌ったり、入浴剤を使用するなどして楽しめるような工夫もしています。	入浴は週2回が基本ですが、入浴することで夜不穏なく、落ち着いて眠れる人には声をかけるなどの対応もしています。入浴中は職員と話したり歌を歌ったりする人もいます。介護度の高い利用者は1階フロアのリフト浴を利用しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	休みたい時は休めるようにを支援しています。また、心地良く休める様に室温の調整や照明の管理をしています。夜間に安心して眠れるように、日中は活動をするよう促し、生活リズムを整えられるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬が起きない様に内服支援は手順に添って職員2名で確認をしています。居宅療養管理指導で薬剤師が介入し、質問や説明を受けています。一人一人の処方薬のファイルがあり、内容がわかるようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1年の行事計画を作り季節の移り変わりや、気分転換の機会が持てる様に支援をしています。個々の力を見極め、生活の中で必然かつ必要なことがらを個々の役割として提供し、協力し合っています。毎回、感謝の気持ちを伝えるようにしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	重度化による人手不足等の理由で、外出、外食はほとんど出来ていませんが、希望のある一部のご利用者様に限り、ご家族等の協力により外出等行っています。また、近隣への散歩や買物に出かけることは実施しています。	日常的な散歩では戸外の景色や空気に触れたり、ベランダで外気浴をしています。また、ライトアップした庭の桜の木で花見を開催しています。敷地にベンチを設置し、地域の人とも利用してもらい交流できるような工夫をしています。家族とお墓詣りや外食に出かける方もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員が管理をしています。一部、自己管理の希望があるかたには、財布を日常的に所持していただき、散歩時にコンビニでおやつ等を購入するなど使う機会を持っています。また、外出時には、財布を持っていただく機会を持つ方もいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある場合は、手紙のやり取りを支援したり、電話できるように支援しています。ご友人や親戚からの手紙等は個々の状態に合わせて、読み上げるなどの支援をしています。また、携帯電話を使っておられる方もいます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	冷暖房、照明等の管理、季節感を感じる装飾なども五感で楽しめるよう工夫をしています。日常的な会話の内容や歌などでも季節を感じられるよう支援しています。心地よい空間の提供を心がけています。	掃除や換気に留意しています。フロアのワックスがけや、トイレの臭い解消に壁紙を拭くなど、清潔と不快にならないような配慮をしています。畳のスペースに設置したソファで横になり寛ぐ人もいます。玄関前には季節の花を植えたプランターを置き、ベランダは外気浴や気分転換の場となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	なるべく気の合った利用者同士で同席し気持ち良く過ごされるように配慮しています。自由に行き来でき、思い思いに過ごしていただいています。ソファを置き、くつろげるようにしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人が大切にされている写真を置いたり、なじみの物を置いたり、テレビを観ながら横になったり等、居心地よく過ごせるよう配慮しています。しかし、認知症や身体面の状態によっては、安全安心を優先し、アレンジしています。	入居者の状況に忠じて、緩衝材を使用したベッド柵カバーを手作りするなど、痣などが出来ないように職員で話し合い工夫をしています。居室担当制をとっており、担当者はケアプランに沿った視点でも入居者へ気を配っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下にトイレの表示をしたり、居室前に名前を表示しています。また、トイレの手すりを増設したり、呼び出しのボタンを設置したりして、一人ひとりの体力や認知能力に合わせて対応しています。		

事業所名	グループホームおり鶴の里
ユニット名	あやとり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員や面会時に家族が共有できるように玄関・休憩室・廊下に掲示を行い努力しています		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し地域公園の清掃に参加をしたり、七夕には地域の子供たちが短冊に書いて参加出来る様に働きかけています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の場を活用し介護現場の状況や今後の方向性などについての情報提供を行っています。今後は地域の方からの介護の相談に対応出来る環境づくりをしていきたいと考えています		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2カ月に1度開催しています。今年度より対面での開催に変更し、ホームでの事故事例や異動等を説明し地域の方からの理解と協力を得られるように活用しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生保担当ケースワーカーとの連携をとり生活を支えている。介護保険の認定調査の調整などを行っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について会議で共通の認識ができる話し合いを行い、転倒防止の為にセンサーを使用している方についても外す評価が出来る様に指導を行っています。運営推進会議に身体拘束適正化委員会を設置しています		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修項目に取り込んでいるが実際のケアの場で制止をしてしまう場面が見受けられます。認知症を理解し制止ではなくどう声掛けを行えばよいのか指導を行っています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	年間研修計画に組み込み、学ぶ機会を設けています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	まだ契約・解約ケースを対応したことがないが理解を得られるよう対応することは心得ています		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月ユニットで行ったイベントなどを写真入りで紹介するお便りを送っています。またインスタグラムを開設し日々の行事を見れるように発信しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の勤務での疑問や提案について意見を聞き、ユニット内で解決できない内容であれば幹部会議への提案を行っています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人員不足の中でスタッフに過度の負担を掛けずに勤務体系を組むように努力しています。スタッフを確保できるよう地域の特性を調査し工夫を行っています		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人員の確保は行えたが介護技術やアセスメント、的確な考察が行える教育体制が整備できていないため、個々の能力に合わせた指導方法を働き方を見ながら提案しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他の介護事業者や福祉用具業者、病院のソーシャルワーカーと積極的に情報交換を行っています		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居申し込みへの対応はまだないが、ホームの件等のアプローチから開始しご本人の納得が得られる方向へ援助していきます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の希望するホームでの生活スタイルとご本人の希望を調整を行い、不安を聞くだけではなく協力を頂きたい点についても具体的に説明が出来る様に関わる努力をしていきます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人の身体状況や本人家族の希望をアセスメントし、グループホームでの生活が良いのか、他の施設を選択した方が良いのかケアマネジメントできるように関わっていきます		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	安全面を考慮した上で日常生活動作の優先順位を考え、自分で出来る事を行継続していけるように関わっています		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の様子はお便りでお知らせをしています。または変化があった時にはすぐに電話でお伝えしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染症が5類に変わったこともあり、面会や家族との外食が出来る様に働きかけています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々を大切にしながら、9人での共同生活が行えるように職員が間に入り関係性の調整などを行っています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後に家族からの相談があればお話しを聞くようにしています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中から意向をくみ取るよう努力しています。意向に答えられる方法をスタッフで考えケアに組み入れています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居以前の生活状況を把握し、趣味や嗜好をホームでの生活の中に取り込めるよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の変化や、気分や感情の日内差をスタッフ間で共有しケアに活かせるよう努力を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフ全員が同じケアを提供できるように方法等共有ししながら検討することができている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各入居者様の個々の情報共有の方法は、口頭だけでなく書面で申し送りを行う様にしており必ず就業前に確認することを指揮して行えています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族との連絡を密にとり介護保険に関する役所の対応や入院時の病院との連携を図るようにしています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	協働できるようにするために、まずはホームのことを知ってもらう事を課題とし近隣の方との交流が持てる様に見えるイベントを開催しています		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的に協力医療機関を活用していますが、症状などをアセスメントし必要時は専門科のある病院に受診を行っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	いつのと違う事に気付ける様に日々の生活状況を把握するよう指導を行っています。また変化があった時に看護職員に正確に伝えられるよう指導を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に早期にソーシャルワーカーとの連携を築き、家族を含め退院調整が行えるように努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	生活場面を見ていない家族にとって終末期を理解することが難しいため書面のやり取りではなく時間をかけて説明を行い文書を取り交わしを行っています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	対応方法についてはマニュアル化しているが、グループホームという環境の中では訓練は行えていません。事例から考察し習得できるよう指導は行っています		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練は行っています。備蓄に関してはコロナと災害の区別がついていません。入居者の食形態に合わせた備蓄に変更するために現在管理を検討しています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	トイレ介助の際の方法や環境など配慮が足りない場面が見受けられていた為スタッフへの指導を行うことで改善が見られました		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人のペースで過ごせるように支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務とケアをはき違えてしまうスタッフが多い為、日々の生活面の中で指導を行い少しずつ改善が見られています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴の準備の際に、出来る方には自分で服を選択するなど行っています。新しく物品を購入する際にも一緒にカタログから選ぶようにしています		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	現在、食事専門のスタッフを3人採用し家庭的な料理を提供しています。女性の入居者様二人が片づけを手伝ってくれています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	知り合いの管理栄養士に相談しながら必要なカロリーを提供しています。体重の増減を見ながら評価を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛けを行い歯磨きをしていただいています。義歯はスタッフが消毒管理しています 訪問歯科を利用している方は口腔内環境の評価をしてもらっています		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	適切なパットの使用方法を習得、終日オムツの入居者様のオムツかぶれしないパットの選定を行っています。96歳の方は適切な誘導を行う事で日中失禁なく過ごせるようになっていきます		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	定期的な排便の大切さは理解できる様になっていると思います。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴支援を行っています。見守りで入れる方はなるべく自分のペースで入浴できるよう関わっています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	身体状況に合わせて日中も休息をとれるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	何の目的で飲んでいるか、副作用は何かを理解した上で服薬介助に携わる様にしていきます 誤薬防止のため常にダブルチェックを行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	花の植栽を一緒に行ったり地域に向けてのイベント（桜ライトアップ、鯉のぼり、七夕等）の飾りつけ等行っています		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候や気温を考慮し散歩を行ない、買い物時、同行も行っています ご家族にも外食の機会を儲けて頂けるようお願いをしています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理はホームで行っています。購入については随時家族へ報告の上行っています。買い物同行の際には好きなおやつを選んでもらうなどしています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時行っています		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	KYTの観点から動線にある物品の整理を行なうとともに、切れたままになっていた廊下の電球もすべて交換を行い安全に配慮を行いました		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファで横になったり、ベランダにベンチを設置し自由に日光浴が出来る環境を作っています。リビングではトラブルにならない様に椅子の位置など配慮を行っています		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室担当を決めて、それぞれが入居者様と話をしながら安全面に配慮し行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体能力を評価した上で、遠位見守りで行っていたり、介助方法・同線を考慮しています		

2023年度

事業所名 グループホームおり鶴の里

作成日： 2024 年 2 月 1 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	求人を継続していますが、職員の離職もあり、人手が不足しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員を採用する ・働きやすい環境をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・採用活動の強化 ・多様な働き方に対応できる体制づくり ・受け入れる人材の幅を広げる ・職員間のコミュニケーションを活発にする 	12ヶ月
2	49	利用者の重度化や人手不足のため、日常的な外出支援の機会が減少しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望に応じた外出の支援をする ・外出の機会を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足の解消 ・業務の改善を行い ・ご家族等への協力を依頼する 	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月